

楽典Ⅰ

授業形態		講義		年間授業時間数		36時間	
実務経験のある教員		実務内容					
授業内容	記譜法とそれを理解する為に必要な基礎概念、用語を学ぶ						
到達目標	音楽に携わる者として最低限の知識やその役割を理解して、音楽業界人としての教養を身につける。						
教材	楽典 理論と実習（音楽之友社） プリント教材						
年間授業計画							
1 五線・譜表・音部記号	37 -	73 -	109 -				
2 音名・臨時記号	38 -	74 -	110 -				
3 音程1	39 -	75 -	111 -				
4 音程2	40 -	76 -	112 -				
5 転回音程・複音程	41 -	77 -	113 -				
6 音符と休符1	42 -	78 -	114 -				
7 音符と休符2	43 -	79 -	115 -				
8 リズムと拍子1	44 -	80 -	116 -				
9 リズムと拍子2	45 -	81 -	117 -				
10 音階1	46 -	82 -	118 -				
11 音階2	47 -	83 -	119 -				
12 調号	48 -	84 -	120 -				
13 移調楽器	49 -	85 -	121 -				
14 速さ、強さに関する表示法	50 -	86 -	122 -				
15 舞曲の種類	51 -	87 -	123 -				
16 前期授業内テスト	52 -	88 -	124 -				
17 テスト解説	53 -	89 -	125 -				
18 前期まとめ	54 -	90 -	126 -				
19 調号と音階	55 -	91 -	127 -				
20 調の相互関係1	56 -	92 -	128 -				
21 調の相互関係2	57 -	93 -	129 -				
22 移調と転調	58 -	94 -	130 -				
23 調の判定1	59 -	95 -	131 -				
24 調の判定2	60 -	96 -	132 -				
25 調の判定3	61 -	97 -	133 -				
26 三和音	62 -	98 -	134 -				
27 七の和音	63 -	99 -	135 -				
28 和音の転回	64 -	100 -	136 -				
29 和音の機能	65 -	101 -	137 -				
30 発想標語	66 -	102 -	138 -				
31 奏法に関する表示法	67 -	103 -	139 -				
32 略記法	68 -	104 -	140 -				
33 演奏時間の計算	69 -	105 -	141 -				
34 後期授業内テスト	70 -	106 -	142 -				
35 テスト解説	71 -	107 -	143 -				
36 後期まとめ	72 -	108 -	144 -				
成績評価方法							
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～	
筆記試験	○						
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない					

和声				
授業形態		講義	年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員		実務内容		
授業内容	楽典を発展させ「和声法」を学ぶ			
到達目標	音楽に携わる者として最低限の知識やその役割を理解して、音楽業界人としての教養を身につける			
教材	和声 理論と実習 I（音楽之友社） プリント教材			
年間授業計画				
1 授業概論：和声法を学ぶにあたって	37－	73－	109－	
2 3和音・各音度上の3和音	38－	74－	110－	
3 基本位置と転回位置（低音位）	39－	75－	111－	
4 声部と配置	40－	76－	112－	
5 上3声の配置	41－	77－	113－	
6 基本位置3和音の標準配置	42－	78－	114－	
7 基本位置3和音の標準連結	43－	79－	115－	
8 連結に関する禁則	44－	80－	116－	
9 I・IV・Vの和音の連結	45－	81－	117－	
10 //	46－	82－	118－	
11 II→Vの連結	47－	83－	119－	
12 V→VIの連結	48－	84－	120－	
13 和音設定 カデンツの3種の型	49－	85－	121－	
14 和音進行の可能性	50－	86－	122－	
15 カデンツの結合と終止形	51－	87－	123－	
16 実習と反復	52－	88－	124－	
17 授業内試験	53－	89－	125－	
18 前期まとめ	54－	90－	126－	
19 3和音の第1転回形	55－	91－	127－	
20 3和音の第1転回形の標準連結	56－	92－	128－	
21 3和音の第1転回形の实習	57－	93－	129－	
22 IIの1転形の配置及び連結	58－	94－	130－	
23 1転3和音を含むカデンツ	59－	95－	131－	
24 1転3和音を含むカデンツの实習	60－	96－	132－	
25 3和音第2転回形の定型	61－	97－	133－	
26 S和音→2転 I Vの連結	62－	98－	134－	
27 2転3和音を含むカデンツの实習	63－	99－	135－	
28 V7の和音の配置と限定進行音	64－	100－	136－	
29 V7の和音の転回形	65－	101－	137－	
30 V7の和音→Iの和音への連結	66－	102－	138－	
31 先行和音→V7の和音への連結	67－	103－	139－	
32 V7の和音→VIの和音への連結	68－	104－	140－	
33 V7の和音を含むカデンツの实習	69－	105－	141－	
34 実習と反復	70－	106－	142－	
35 授業内試験	71－	107－	143－	
36 後期まとめ	72－	108－	144－	
成績評価方法				
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする		
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70
筆記試験	○	D評価 69～60	E評価 59～	
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない		

音楽史 I

授業形態		講義		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員			実務内容		
授業内容	①作曲家と活躍した時代・国などを学ぶ。 ②有名な作曲家の代表作品について学ぶ。				
到達目標	世界音楽の歴史を通じ曲や演奏法がどのように発展していったかを学び、演奏や関係の仕事に役立てることを目標とする。				
教材	大人の音楽史入門(ヤマハ・ミュージック・メディア) プリント教材				

年間授業計画

1 古代文明の中の音楽	37 -	73 -	109 -
2 グレゴリア聖歌の成立	38 -	74 -	110 -
3 中世の音楽	39 -	75 -	111 -
4 ポリフォニーの発生とその進展	40 -	76 -	112 -
5 ノートルダム楽派	41 -	77 -	113 -
6 トルヴァードール達とその周辺	42 -	78 -	114 -
7 中世の音楽理論と記譜法の変遷	43 -	79 -	115 -
8 定量記譜法	44 -	80 -	116 -
9 教会旋法から全音階へ	45 -	81 -	117 -
10 聖ヨハネ賛歌と階名の起源	46 -	82 -	118 -
11 ルネサンスの音楽	47 -	83 -	119 -
12 アルスノヴァの音楽とモテット	48 -	84 -	120 -
13 14世紀イタリアの世俗音楽	49 -	85 -	121 -
14 イギリス音楽とダンスタブルの影響	50 -	86 -	122 -
15 ネーデルランド楽派の音楽活動	51 -	87 -	123 -
16 ウイラールトとベネチア楽派	52 -	88 -	124 -
17 宗教改革とローマ楽派	53 -	89 -	125 -
18 授業内試験	54 -	90 -	126 -
19 バロックの音楽	55 -	91 -	127 -
20 カメラータと歌劇の誕生	56 -	92 -	128 -
21 モンテベルディの歌劇	57 -	93 -	129 -
22 イタリア式序曲	58 -	94 -	130 -
23 オペラセリアとオペラブッフ	59 -	95 -	131 -
24 フランスの歌劇	60 -	96 -	132 -
25 イギリスとドイツの歌劇	61 -	97 -	133 -
26 バロック時代の楽器と器楽	62 -	98 -	134 -
27 バッハとヘンデルその他の作曲家	63 -	99 -	135 -
28 古典派の音楽	64 -	100 -	136 -
29 古典主義音楽の背景	65 -	101 -	137 -
30 ブフォン論争とグルック	66 -	102 -	138 -
31 オーケストラ音楽とマンハイム楽派	67 -	103 -	139 -
32 ハイドンとモーツァルト	68 -	104 -	140 -
33 ベートーヴェンの登場	69 -	105 -	141 -
34 古典主義音楽の確立とその意義	70 -	106 -	142 -
35 古典派からロマン派への変遷	71 -	107 -	143 -
36 授業内試験	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験	○					
実技試験						

成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない

音楽史Ⅱ

授業形態		講義		年間授業時間数		36時間		
実務経験のある教員				実務内容				
授業内容		時代による演奏方法の違いや使用楽器の違い、又同じ時代にあっても国によつての演奏方法の違いを学ぶ。						
到達目標		音楽史Ⅰで学んだ内容を、より深く学び高度な知識を身に付け演奏や仕事に役立てることを目標とする						
教材		大人の音楽史入門(ヤマハミュージックメディア) プリント教材						
年間授業計画								
1		ロマン主義音楽の始まり	37	－	73	－	109	－
2		19世紀の始めのイタリアの歌劇：ロッシーニ	38	－	74	－	110	－
3		ドイツ歌劇とウェーバー	39	－	75	－	111	－
4		名演奏家の出現：パガニーニ	40	－	76	－	112	－
5		メンデルスゾーンの音楽	41	－	77	－	113	－
6		ドイツ・リートの特徴：シューベルト	42	－	78	－	114	－
7		ロマン主義の音楽、その盛期	43	－	79	－	115	－
8		標題音楽とベルリオーズ	44	－	80	－	116	－
9		ベルリオーズ「幻想交響曲」鑑賞	45	－	81	－	117	－
10		シューマンとその作品	46	－	82	－	118	－
11		ショパンのピアノ曲	47	－	83	－	119	－
12		リストの果たした役割	48	－	84	－	120	－
13		ブラームスの音楽にみる保守性	49	－	85	－	121	－
14		その後の歌劇界：ベルディ、イタリアの現象派歌劇とフランス	50	－	86	－	122	－
15		ビゼー「カルメン」鑑賞①	51	－	87	－	123	－
16		ビゼー「カルメン」鑑賞②	52	－	88	－	124	－
17		前期試験準備	53	－	89	－	125	－
18		前期試験	54	－	90	－	126	－
19		前期試験解答	55	－	91	－	127	－
20		ワーグナーと楽劇の意義	56	－	92	－	128	－
21		ワーグナー「タンホイザー」鑑賞①	57	－	93	－	129	－
22		ワーグナー「タンホイザー」鑑賞②	58	－	94	－	130	－
23		ワーグナー「タンホイザー」鑑賞③	59	－	95	－	131	－
24		オペレッタの世界	60	－	96	－	132	－
25		19世紀後半から20世紀へ	61	－	97	－	133	－
26		ロシア音楽と五人組：ムソルグスキー	62	－	98	－	134	－
27		ロマン主義的なロシアの作曲家たち：チャイコフスキー	63	－	99	－	135	－
28		ボヘミアの国民主義音楽：ドヴォルザーク	64	－	100	－	136	－
29		スカンジナビア諸国の作曲家たち	65	－	101	－	137	－
30		19世紀後半のドイツとオーストリア①：マーラー	66	－	102	－	138	－
31		19世紀後半のドイツとオーストリア②：リヒャルト・シュトラウス	67	－	103	－	139	－
32		フランスの作曲家たち①：サン＝サーンス	68	－	104	－	140	－
33		フランスの作曲家たち②：フランク、フォーレ	69	－	105	－	141	－
34		その他の国では：スペイン、ハンガリー、イギリス他	70	－	106	－	142	－
35		後期試験準備	71	－	107	－	143	－
36		後期試験	72	－	108	－	144	－
成績評価方法								
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする						
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～		
筆記試験	○							
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						

編曲法Ⅰ

授業形態		講義		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員		○	実務内容	吹奏楽を指導する上で、編曲者として楽曲を提供している教員による授業	
授業内容		身近な楽譜を写譜する事からはじめ、楽譜を製作する基礎を学ぶ。			
到達目標		基本的な編曲の仕方や知識を習得する事を目標とする			
教材		作曲・編曲用ソフト Finale			
年間授業計画					
1 楽器の音域1		37 -	73 -	109 -	
2 楽器の音域2		38 -	74 -	110 -	
3 楽器の音域3		39 -	75 -	111 -	
4 編曲ソフトfinaleによる写譜1		40 -	76 -	112 -	
5 編曲ソフトfinaleによる写譜2		41 -	77 -	113 -	
6 編曲ソフトfinaleによる写譜3		42 -	78 -	114 -	
7 編曲1		43 -	79 -	115 -	
8 編曲2		44 -	80 -	116 -	
9 編曲3		45 -	81 -	117 -	
10 編曲4		46 -	82 -	118 -	
11 編曲5		47 -	83 -	119 -	
12 編曲6		48 -	84 -	120 -	
13 編曲7		49 -	85 -	121 -	
14 編曲8		50 -	86 -	122 -	
15 編曲9		51 -	87 -	123 -	
16 編曲10		52 -	88 -	124 -	
17 編曲11		53 -	89 -	125 -	
18 前期まとめ		54 -	90 -	126 -	
19 編曲12		55 -	91 -	127 -	
20 編曲13		56 -	92 -	128 -	
21 編曲14		57 -	93 -	129 -	
22 編曲15		58 -	94 -	130 -	
23 編曲16		59 -	95 -	131 -	
24 編曲17		60 -	96 -	132 -	
25 編曲18		61 -	97 -	133 -	
26 編曲19		62 -	98 -	134 -	
27 編曲20		63 -	99 -	135 -	
28 編曲21		64 -	100 -	136 -	
29 編曲22		65 -	101 -	137 -	
30 編曲23		66 -	102 -	138 -	
31 編曲24		67 -	103 -	139 -	
32 編曲25		68 -	104 -	140 -	
33 編曲26		69 -	105 -	141 -	
34 編曲27		70 -	106 -	142 -	
35 編曲28		71 -	107 -	143 -	
36 後期まとめ		72 -	108 -	144 -	
成績評価方法					
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする			
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
筆記試験	○				
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

編曲法Ⅱ

授業形態		講義		年間授業時間数		36時間	
実務経験のある教員		○	実務内容	吹奏楽を指導する上で、編曲者として楽曲を提供している教員による授業			
授業内容		編成を減らす編曲や、ピアノ譜から合奏譜を作成し、実際に演奏してみる。					
到達目標		編曲法Ⅰで習得した技術を応用し合唱曲を吹奏楽譜に編曲する。スコア・パート譜共にレイアウトまで学習し、実際に演奏をする。					
教材		作曲・編曲用ソフト　Finale・合唱曲集MYSONG					
年間授業計画							
1 選曲1：複数曲の課題曲(管弦楽曲)を聴き曲を選択する		37 -		73 -		109 -	
2 選曲2		38 -		74 -		110 -	
3 スコア作成1：楽器編成を決める		39 -		75 -		111 -	
4 スコア作成2		40 -		76 -		112 -	
5 編曲1		41 -		77 -		113 -	
6 編曲2		42 -		78 -		114 -	
7 編曲3		43 -		79 -		115 -	
8 編曲4		44 -		80 -		116 -	
9 編曲5		45 -		81 -		117 -	
10 編曲6		46 -		82 -		118 -	
11 編曲7		47 -		83 -		119 -	
12 編曲8		48 -		84 -		120 -	
13 編曲9		49 -		85 -		121 -	
14 編曲10		50 -		86 -		122 -	
15 編曲11		51 -		87 -		123 -	
16 編曲12		52 -		88 -		124 -	
17 前期授業内テスト		53 -		89 -		125 -	
18 前期まとめ		54 -		90 -		126 -	
19 編曲13		55 -		91 -		127 -	
20 編曲16		56 -		92 -		128 -	
21 編曲17		57 -		93 -		129 -	
22 編曲18		58 -		94 -		130 -	
23 編曲19		59 -		95 -		131 -	
24 編曲20		60 -		96 -		132 -	
25 編曲21		61 -		97 -		133 -	
26 編曲22		62 -		98 -		134 -	
27 編曲23		63 -		99 -		135 -	
28 編曲24		64 -		100 -		136 -	
29 編曲25		65 -		101 -		137 -	
30 編曲26		66 -		102 -		138 -	
31 編曲27		67 -		103 -		139 -	
32 編曲28		68 -		104 -		140 -	
33 編曲29		69 -		105 -		141 -	
34 編曲30		70 -		106 -		142 -	
35 後期授業内テスト(合奏音だし確認)		71 -		107 -		143 -	
36 後期まとめ		72 -		108 -		144 -	
成績評価方法							
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～	
筆記試験	○						
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない					

実践指揮法 I

授業形態		演習		年間授業時間数		36時間	
実務経験のある教員		○		実務内容		吹奏楽団・管弦楽団等で多くの楽曲の指揮経験のある教員による授業	
授業内容		指揮者として実際にバンドの指揮を行い、拍子の振り分けや強弱の指示が明確に出来るようにする。					
到達目標		基本的な指揮法や知識を身につけバンド指導能力を養うことを目的とする。					
教材		各種楽曲（吹奏楽譜、オーケストラ譜など）					
年間授業計画							
1 指揮の基本姿勢		37 -		73 -		109 -	
2 指揮棒の持ち方		38 -		74 -		110 -	
3 スコアの見方1		39 -		75 -		111 -	
4 スコアの見方2と2拍子の基本図形		40 -		76 -		112 -	
5 3拍子の基本図形		41 -		77 -		113 -	
6 4拍子の基本図形		42 -		78 -		114 -	
7 2拍子の作品で実習		43 -		79 -		115 -	
8 2拍子の作品で実習		44 -		80 -		116 -	
9 3拍子の作品で実習		45 -		81 -		117 -	
10 3拍子の作品で実習		46 -		82 -		118 -	
11 4拍子の作品で実習		47 -		83 -		119 -	
12 4拍子の作品で実習		48 -		84 -		120 -	
13 定期演奏会の作品を使用して実習		49 -		85 -		121 -	
14 定期演奏会の作品を使用して実習		50 -		86 -		122 -	
15 定期演奏会の作品を使用して実習		51 -		87 -		123 -	
16 定期演奏会の作品を使用して実習		52 -		88 -		124 -	
17 定期演奏会の作品を使用して実習		53 -		89 -		125 -	
18 定期演奏会の作品を使用して実習		54 -		90 -		126 -	
19 定期演奏会の作品を使用して実習		55 -		91 -		127 -	
20 定期演奏会の作品を使用して実習		56 -		92 -		128 -	
21 定期演奏会の作品を使用して実習		57 -		93 -		129 -	
22 定期演奏会の作品を使用して実習		58 -		94 -		130 -	
23 複合拍子の指揮法		59 -		95 -		131 -	
24 混合拍子の指揮法		60 -		96 -		132 -	
25 変拍子の指揮法1		61 -		97 -		133 -	
26 変拍子の指揮法2		62 -		98 -		134 -	
27 変拍子の指揮法3		63 -		99 -		135 -	
28 フィルマータの指揮1		64 -		100 -		136 -	
29 フィルマータの指揮2		65 -		101 -		137 -	
30 変拍子の指揮法1		66 -		102 -		138 -	
31 定期演奏会の作品を使用して実習		67 -		103 -		139 -	
32 定期演奏会の作品を使用して実習		68 -		104 -		140 -	
33 定期演奏会の作品を使用して実習		69 -		105 -		141 -	
34 定期演奏会の作品を使用して実習		70 -		106 -		142 -	
35 定期演奏会の作品を使用して実習		71 -		107 -		143 -	
36 定期演奏会の作品を使用して実習		72 -		108 -		144 -	
成績評価方法							
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席		○					
筆記試験							
実技試験		○					
		A評価 100～90 B評価 89～80 C評価 79～70 D評価 69～60 E評価 59～					
		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない					

実践指揮法Ⅱ

授業形態		演習		年間授業時間数		36時間	
実務経験のある教員		○		実務内容		吹奏楽団・管弦楽団等で多くの楽曲の指揮経験のある教員による授業	
授業内容		指揮者として実際にバンドの指揮を振り、表現方法の指示を明確に出来るようにする。					
到達目標		実践指揮法Ⅰで学んだ事を応用し、より高度な指揮法を身に付ける事を目標とする。					
教材		各種楽曲（吹奏楽譜、オーケストラ譜など）					
年間授業計画							
1 指揮の基本姿勢		37 -		73 -		109 -	
2 指揮棒の持ち方		38 -		74 -		110 -	
3 スコアの見方1		39 -		75 -		111 -	
4 スコアの見方2と2拍子の基本図形		40 -		76 -		112 -	
5 3拍子の基本図形		41 -		77 -		113 -	
6 4拍子の基本図形		42 -		78 -		114 -	
7 2拍子の作品で実習		43 -		79 -		115 -	
8 2拍子の作品で実習		44 -		80 -		116 -	
9 3拍子の作品で実習		45 -		81 -		117 -	
10 3拍子の作品で実習		46 -		82 -		118 -	
11 4拍子の作品で実習		47 -		83 -		119 -	
12 4拍子の作品で実習		48 -		84 -		120 -	
13 定期演奏会の作品を使用して実習		49 -		85 -		121 -	
14 定期演奏会の作品を使用して実習		50 -		86 -		122 -	
15 定期演奏会の作品を使用して実習		51 -		87 -		123 -	
16 定期演奏会の作品を使用して実習		52 -		88 -		124 -	
17 定期演奏会の作品を使用して実習		53 -		89 -		125 -	
18 定期演奏会の作品を使用して実習		54 -		90 -		126 -	
19 定期演奏会の作品を使用して実習		55 -		91 -		127 -	
20 定期演奏会の作品を使用して実習		56 -		92 -		128 -	
21 定期演奏会の作品を使用して実習		57 -		93 -		129 -	
22 定期演奏会の作品を使用して実習		58 -		94 -		130 -	
23 複合拍子の指揮法		59 -		95 -		131 -	
24 混合拍子の指揮法		60 -		96 -		132 -	
25 変拍子の指揮法1		61 -		97 -		133 -	
26 変拍子の指揮法2		62 -		98 -		134 -	
27 変拍子の指揮法3		63 -		99 -		135 -	
28 フィルマータの指揮1		64 -		100 -		136 -	
29 フィルマータの指揮2		65 -		101 -		137 -	
30 変拍子の指揮法1		66 -		102 -		138 -	
31 定期演奏会の作品を使用して実習		67 -		103 -		139 -	
32 定期演奏会の作品を使用して実習		68 -		104 -		140 -	
33 定期演奏会の作品を使用して実習		69 -		105 -		141 -	
34 定期演奏会の作品を使用して実習		70 -		106 -		142 -	
35 定期演奏会の作品を使用して実習		71 -		107 -		143 -	
36 定期演奏会の作品を使用して実習		72 -		108 -		144 -	
成績評価方法							
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席		○					
筆記試験							
実技試験		○					
		A評価 100～90 B評価 89～80 C評価 79～70 D評価 69～60 E評価 59～					
		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない					

吹奏楽基礎演習Ⅰ

授業形態		演習		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員		○	実務内容 吹奏楽団・管弦楽団等で多くの楽曲の演奏経験のある教員による授業		
授業内容	コーラルやコンコーネを使用し、ハーモニーやバランスを自分で判断できるようにする。また合奏内での自分の役割を瞬時に判断できるようにする。				
到達目標	同調の楽器だけでなく様々な調の楽器とのユニゾンの合わせ方やハーモニーの鳴らし方、バランスの取り方等を習得し基本的な合奏能力の向上を目標とする。				
教材	吹奏楽のためのコンコーネ 50(ティーダ出版)・合唱曲集				

年間授業計画

1	スケール(以下S)とデンフラージュ(以下D)	37 -	73 -	109 -
2	SとD	38 -	74 -	110 -
3	SとD	39 -	75 -	111 -
4	Sとハーモニー(以下H)とD	40 -	76 -	112 -
5	SとHとD	41 -	77 -	113 -
6	SとHとD	42 -	78 -	114 -
7	SとHとD	43 -	79 -	115 -
8	SとHとD	44 -	80 -	116 -
9	SとHとD	45 -	81 -	117 -
10	SとHとD	46 -	82 -	118 -
11	SとHとD	47 -	83 -	119 -
12	SとHとD	48 -	84 -	120 -
13	SとHとD	49 -	85 -	121 -
14	SとHとD	50 -	86 -	122 -
15	SとHとD	51 -	87 -	123 -
16	SとHとD	52 -	88 -	124 -
17	SとHとD	53 -	89 -	125 -
18	SとHとD	54 -	90 -	126 -
19	SとHとD	55 -	91 -	127 -
20	SとHとD	56 -	92 -	128 -
21	SとHとD	57 -	93 -	129 -
22	SとHとD	58 -	94 -	130 -
23	SとHとD	59 -	95 -	131 -
24	SとHとD	60 -	96 -	132 -
25	SとHとD	61 -	97 -	133 -
26	SとHとD	62 -	98 -	134 -
27	SとHとD	63 -	99 -	135 -
28	SとHとD	64 -	100 -	136 -
29	SとHとD	65 -	101 -	137 -
30	SとHとD	66 -	102 -	138 -
31	SとHとD	67 -	103 -	139 -
32	SとHとD	68 -	104 -	140 -
33	SとHとD	69 -	105 -	141 -
34	SとHとD	70 -	106 -	142 -
35	SとHとD	71 -	107 -	143 -
36	SとHとD	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						

吹奏楽基礎演習Ⅱ

授業形態		演習		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員	○	実務内容	吹奏楽団・管弦楽団等で多くの楽曲の演奏経験のある教員による授業		
授業内容	コーラルやコンコーネを使用し、ハーモニーやバランスを自分で判断できるようにする。また合奏内での自分の役割を瞬時に判断できるようにする。				
到達目標	同調の楽器だけでなく様々な調の楽器とのユニゾンの合わせ方やハーモニーの鳴らし方、バランスの取り方等を習得し基本的な合奏能力の向上を目標とする。				
教材	吹奏楽のためのコンコーネ 50(ティーダ出版)・合唱曲集				

年間授業計画

1	スケール(以下S)とデンフラージュ(以下D)	37 -	73 -	109 -
2	SとD	38 -	74 -	110 -
3	SとD	39 -	75 -	111 -
4	Sとハーモニー(以下H)とD	40 -	76 -	112 -
5	SとHとD	41 -	77 -	113 -
6	SとHとD	42 -	78 -	114 -
7	SとHとD	43 -	79 -	115 -
8	SとHとD	44 -	80 -	116 -
9	SとHとD	45 -	81 -	117 -
10	SとHとD	46 -	82 -	118 -
11	SとHとD	47 -	83 -	119 -
12	SとHとD	48 -	84 -	120 -
13	SとHとD	49 -	85 -	121 -
14	SとHとD	50 -	86 -	122 -
15	SとHとD	51 -	87 -	123 -
16	SとHとD	52 -	88 -	124 -
17	SとHとD	53 -	89 -	125 -
18	SとHとD	54 -	90 -	126 -
19	SとHとD	55 -	91 -	127 -
20	SとHとD	56 -	92 -	128 -
21	SとHとD	57 -	93 -	129 -
22	SとHとD	58 -	94 -	130 -
23	SとHとD	59 -	95 -	131 -
24	SとHとD	60 -	96 -	132 -
25	SとHとD	61 -	97 -	133 -
26	SとHとD	62 -	98 -	134 -
27	SとHとD	63 -	99 -	135 -
28	SとHとD	64 -	100 -	136 -
29	SとHとD	65 -	101 -	137 -
30	SとHとD	66 -	102 -	138 -
31	SとHとD	67 -	103 -	139 -
32	SとHとD	68 -	104 -	140 -
33	SとHとD	69 -	105 -	141 -
34	SとHとD	70 -	106 -	142 -
35	SとHとD	71 -	107 -	143 -
36	SとHとD	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						

吹奏楽演習Ⅰ

授業形態		演習		年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	吹奏楽団・管楽アンサンブル等で多くの楽曲の指揮経験のある教員による授業		
授業内容	ジャンルを問わず様々な楽曲を演奏し、一つのバンドとしてまとまった演奏を各自考えて行えるようにする。				
到達目標	合奏を通じて多様なジャンルの楽曲について学び理解を深める。多様なジャンルの合奏能力の向上を目的とする。				
教材	各種楽曲（吹奏楽譜、オーケストラ譜など）				

年間授業計画

1 合奏(定期演奏会)	37 合奏(定期演奏会)	73 コラールと前回の作品を使用した合奏	109 -
2 "	38 "	74 "	110 -
3 "	39 "	75 "	111 -
4 合奏(定期演奏会)	40 各国のマーチと初見合奏	76 合奏(定期演奏会)	112 -
5 "	41 "	77 "	113 -
6 "	42 "	78 "	114 -
7 合奏(定期演奏会)	43 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	79 合奏(定期演奏会)	115 -
8 "	44 "	80 "	116 -
9 "	45 "	81 "	117 -
10 合奏(定期演奏会)	46 各国のマーチと初見合奏	82 合奏(定期演奏会)	118 -
11 "	47 "	83 "	119 -
12 "	48 "	84 "	120 -
13 合奏(定期演奏会)	49 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	85 合奏(定期演奏会)	121 -
14 "	50 "	86 "	122 -
15 "	51 "	87 "	123 -
16 合奏(定期演奏会)	52 各国のマーチと初見合奏	88 合奏(定期演奏会)	124 -
17 "	53 "	89 "	125 -
18 "	54 "	90 "	126 -
19 合奏(定期演奏会)	55 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	91 合奏(定期演奏会)	127 -
20 "	56 "	92 "	128 -
21 "	57 "	93 "	129 -
22 合奏(定期演奏会)	58 コラールと初見合奏	94 合奏(定期演奏会)	130 -
23 "	59 "	95 "	131 -
24 "	60 "	96 "	132 -
25 合奏(定期演奏会)	61 コラールと前回の作品を使用した合奏	97 合奏(定期演奏会)	133 -
26 "	62 "	98 "	134 -
27 "	63 "	99 "	135 -
28 合奏(定期演奏会)	64 コラールと初見合奏	100 合奏(定期演奏会)	136 -
29 "	65 "	101 "	137 -
30 "	66 "	102 "	138 -
31 合奏(定期演奏会)	67 コラールと前回の作品を使用した合奏	103 合奏(定期演奏会)	139 -
32 "	68 "	104 "	140 -
33 "	69 "	105 "	141 -
34 合奏(定期演奏会)	70 コラールと初見合奏	106 合奏(定期演奏会)	142 -
35 "	71 "	107 "	143 -
36 "	72 "	108 "	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率と定期演奏会(当日・集中練習と合宿)の出席率の合算によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				
実技試験						

吹奏楽演習Ⅱ

授業形態		演習		年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	吹奏楽団・管楽アンサンブル等で多くの楽曲の指揮経験のある教員による授業		
授業内容	ジャンルを問わず様々な楽曲を演奏し、一つのバンドとしてまとまった演奏を各自考えて行えるようにする。				
到達目標	合奏を通じて多様なジャンルの楽曲について学び理解を深める。多様なジャンルの合奏能力の向上を目的とする。				
教材	各種楽曲(吹奏楽譜、オーケストラ譜など)				
年間授業計画					
1 合奏(定期演奏会)	37 合奏(定期演奏会)	73 コラールと前回の作品を使用した合奏	109 -		
2 "	38 "	74 "	110 -		
3 "	39 "	75 "	111 -		
4 合奏(定期演奏会)	40 各国のマーチと初見合奏	76 合奏(定期演奏会)	112 -		
5 "	41 "	77 "	113 -		
6 "	42 "	78 "	114 -		
7 合奏(定期演奏会)	43 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	79 合奏(定期演奏会)	115 -		
8 "	44 "	80 "	116 -		
9 "	45 "	81 "	117 -		
10 合奏(定期演奏会)	46 各国のマーチと初見合奏	82 合奏(定期演奏会)	118 -		
11 "	47 "	83 "	119 -		
12 "	48 "	84 "	120 -		
13 合奏(定期演奏会)	49 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	85 合奏(定期演奏会)	121 -		
14 "	50 "	86 "	122 -		
15 "	51 "	87 "	123 -		
16 合奏(定期演奏会)	52 各国のマーチと初見合奏	88 合奏(定期演奏会)	124 -		
17 "	53 "	89 "	125 -		
18 "	54 "	90 "	126 -		
19 合奏(定期演奏会)	55 各国のマーチと前回の作品を使用した合奏	91 合奏(定期演奏会)	127 -		
20 "	56 "	92 "	128 -		
21 "	57 "	93 "	129 -		
22 合奏(定期演奏会)	58 コラールと初見合奏	94 合奏(定期演奏会)	130 -		
23 "	59 "	95 "	131 -		
24 "	60 "	96 "	132 -		
25 合奏(定期演奏会)	61 コラールと前回の作品を使用した合奏	97 合奏(定期演奏会)	133 -		
26 "	62 "	98 "	134 -		
27 "	63 "	99 "	135 -		
28 合奏(定期演奏会)	64 コラールと初見合奏	100 合奏(定期演奏会)	136 -		
29 "	65 "	101 "	137 -		
30 "	66 "	102 "	138 -		
31 合奏(定期演奏会)	67 コラールと前回の作品を使用した合奏	103 合奏(定期演奏会)	139 -		
32 "	68 "	104 "	140 -		
33 "	69 "	105 "	141 -		
34 合奏(定期演奏会)	70 コラールと初見合奏	106 合奏(定期演奏会)	142 -		
35 "	71 "	107 "	143 -		
36 "	72 "	108 "	144 -		
成績評価方法					
評価対象		出席率と定期演奏会(当日・集中練習と合宿)の出席率の合算によりAからEの評価とする			
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
筆記試験					
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

吹奏楽指導法Ⅰ

授業形態		実習		年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	中高等学校や大学で吹奏楽・管弦楽等の指導者としての実務経験のある教員による授		
授業内容	曲による演奏法の違いを実践し、異なった時代による演奏様式などの指導法を身につける。				
到達目標	合奏を通じて吹奏楽基礎演習や吹奏楽演習で学んでいる内容を、指導者として各パートに指示できる指導法を身につける事を目標。				
教材	各種楽曲（吹奏楽譜、オーケストラ譜など）				

年間授業計画

1 合奏内での個別指導	37 合奏内での個別指導	73 合奏内での個別指導	109 -
2 "	38 "	74 "	110 -
3 "	39 "	75 "	111 -
4 "	40 "	76 "	112 -
5 "	41 "	77 "	113 -
6 "	42 "	78 "	114 -
7 "	43 "	79 "	115 -
8 "	44 "	80 "	116 -
9 "	45 "	81 "	117 -
10 "	46 "	82 "	118 -
11 "	47 "	83 "	119 -
12 "	48 "	84 "	120 -
13 "	49 "	85 "	121 -
14 "	50 "	86 "	122 -
15 "	51 "	87 "	123 -
16 "	52 "	88 "	124 -
17 "	53 "	89 "	125 -
18 "	54 "	90 "	126 -
19 "	55 "	91 "	127 -
20 "	56 "	92 "	128 -
21 "	57 "	93 "	129 -
22 "	58 "	94 "	130 -
23 "	59 "	95 "	131 -
24 "	60 "	96 "	132 -
25 "	61 "	97 "	133 -
26 "	62 "	98 "	134 -
27 "	63 "	99 "	135 -
28 "	64 "	100 "	136 -
29 "	65 "	101 "	137 -
30 "	66 "	102 "	138 -
31 "	67 "	103 "	139 -
32 "	68 "	104 "	140 -
33 "	69 "	105 "	141 -
34 "	70 "	106 "	142 -
35 "	71 "	107 "	143 -
36 "	72 "	108 "	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする			
出席	○				
筆記試験		A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

吹奏楽指導法Ⅱ

授業形態		実習		年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	中高等学校や大学で吹奏楽・管弦楽等の指導者としての実務経験のある教員による授		
授業内容	曲による演奏法の違いを実践し、異なった時代による演奏様式などの指導法を身につける。				
到達目標	合奏を通じて吹奏楽基礎演習や吹奏楽演習で学んでいる内容を、指導者として各パートに指示できる指導法を身につける事を目標。				
教材	各種楽曲（吹奏楽譜、オーケストラ譜など）				

年間授業計画

1 合奏内での個別指導	37 合奏内での個別指導	73 合奏内での個別指導	109 -
2 "	38 "	74 "	110 -
3 "	39 "	75 "	111 -
4 "	40 "	76 "	112 -
5 "	41 "	77 "	113 -
6 "	42 "	78 "	114 -
7 "	43 "	79 "	115 -
8 "	44 "	80 "	116 -
9 "	45 "	81 "	117 -
10 "	46 "	82 "	118 -
11 "	47 "	83 "	119 -
12 "	48 "	84 "	120 -
13 "	49 "	85 "	121 -
14 "	50 "	86 "	122 -
15 "	51 "	87 "	123 -
16 "	52 "	88 "	124 -
17 "	53 "	89 "	125 -
18 "	54 "	90 "	126 -
19 "	55 "	91 "	127 -
20 "	56 "	92 "	128 -
21 "	57 "	93 "	129 -
22 "	58 "	94 "	130 -
23 "	59 "	95 "	131 -
24 "	60 "	96 "	132 -
25 "	61 "	97 "	133 -
26 "	62 "	98 "	134 -
27 "	63 "	99 "	135 -
28 "	64 "	100 "	136 -
29 "	65 "	101 "	137 -
30 "	66 "	102 "	138 -
31 "	67 "	103 "	139 -
32 "	68 "	104 "	140 -
33 "	69 "	105 "	141 -
34 "	70 "	106 "	142 -
35 "	71 "	107 "	143 -
36 "	72 "	108 "	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率によりAからEの評価とする				
出席	○				
筆記試験		A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

演奏実習Ⅰ（吹奏楽コース）

授業形態		実習		年間授業時間数		216時間					
実務経験のある教員			実務内容								
授業内容		教則本などを使用し、演奏技術の向上や表現方法を身につける。									
到達目標		各楽器の特性を理解し正しい奏法を身につけ、演奏技術向上の基盤を作ることを目的とする。									
教材		各楽器指定教則本(50のエチュード/ラクール〈サクソ〉、アーバン金管教則本(トランペット)など)									
年間授業計画											
1 個別指導・演習		37 個別指導・演習		73 個別指導・演習		109 個別指導・演習		145 個別指導・演習		181 個別指導・演習	
2 "		38 "		74 "		110 "		146 "		182 "	
3 "		39 "		75 "		111 "		147 "		183 "	
4 "		40 "		76 "		112 "		148 "		184 "	
5 "		41 "		77 "		113 "		149 "		185 "	
6 "		42 "		78 "		114 "		150 "		186 "	
7 "		43 "		79 "		115 "		151 "		187 "	
8 "		44 "		80 "		116 "		152 "		188 "	
9 "		45 "		81 "		117 "		153 "		189 "	
10 "		46 "		82 "		118 "		154 "		190 "	
11 "		47 "		83 "		119 "		155 "		191 "	
12 "		48 "		84 "		120 "		156 "		192 "	
13 "		49 "		85 "		121 "		157 "		193 "	
14 "		50 "		86 "		122 "		158 "		194 "	
15 "		51 "		87 "		123 "		159 "		195 "	
16 "		52 "		88 "		124 "		160 "		196 "	
17 "		53 "		89 "		125 "		161 "		197 "	
18 "		54 "		90 "		126 "		162 "		198 "	
19 "		55 "		91 "		127 "		163 "		199 "	
20 "		56 "		92 "		128 "		164 "		200 "	
21 "		57 "		93 "		129 "		165 "		201 "	
22 "		58 "		94 "		130 "		166 "		202 "	
23 "		59 "		95 "		131 "		167 "		203 "	
24 "		60 "		96 "		132 "		168 "		204 "	
25 "		61 61		97 "		133 "		169 "		205 "	
26 "		62 "		98 "		134 "		170 "		206 "	
27 "		63 "		99 "		135 "		171 "		207 "	
28 "		64 "		100 "		136 "		172 "		208 "	
29 "		65 "		101 "		137 "		173 "		209 "	
30 "		66 "		102 "		138 "		174 "		210 "	
31 "		67 "		103 "		139 "		175 "		211 "	
32 "		68 "		104 "		140 "		176 "		212 "	
33 "		69 "		105 "		141 "		177 "		213 "	
34 "		70 "		106 "		142 "		178 "		214 "	
35 "		71 "		107 "		143 "		179 "		215 "	
36 "		72 "		108 "		144 "		180 "		216 "	
成績評価方法											
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする									
出席		○		A評価 100～90 B評価 89～80 C評価 79～70 D評価 69～60 E評価 59～ 成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない							
筆記試験											
実技試験		○									

演奏実習Ⅱ（吹奏楽コース）

授業形態		実習		年間授業時間数		216時間	
実務経験のある教員			実務内容				
授業内容		公務員音楽隊や海外留学を目標としプロの音楽家としての資質を身につける。					
到達目標		演奏実習Ⅰで学んだ内容を応用・発展させ更に高いレベルの演奏技術を身に着ける事を目的とする。					
教材		各楽器指定教則本(50のエチュード/ラクール〈サクソ〉、アーバン金管教則本(トランペット)など)					
年間授業計画							
1 個別指導・演習		37 個別指導・演習		73 個別指導・演習		109 個別指導・演習	
2 "		38 "		74 "		110 "	
3 "		39 "		75 "		111 "	
4 "		40 "		76 "		112 "	
5 "		41 "		77 "		113 "	
6 "		42 "		78 "		114 "	
7 "		43 "		79 "		115 "	
8 "		44 "		80 "		116 "	
9 "		45 "		81 "		117 "	
10 "		46 "		82 "		118 "	
11 "		47 "		83 "		119 "	
12 "		48 "		84 "		120 "	
13 "		49 "		85 "		121 "	
14 "		50 "		86 "		122 "	
15 "		51 "		87 "		123 "	
16 "		52 "		88 "		124 "	
17 "		53 "		89 "		125 "	
18 "		54 "		90 "		126 "	
19 "		55 "		91 "		127 "	
20 "		56 "		92 "		128 "	
21 "		57 "		93 "		129 "	
22 "		58 "		94 "		130 "	
23 "		59 "		95 "		131 "	
24 "		60 "		96 "		132 "	
25 "		61 61		97 "		133 "	
26 "		62 "		98 "		134 "	
27 "		63 "		99 "		135 "	
28 "		64 "		100 "		136 "	
29 "		65 "		101 "		137 "	
30 "		66 "		102 "		138 "	
31 "		67 "		103 "		139 "	
32 "		68 "		104 "		140 "	
33 "		69 "		105 "		141 "	
34 "		70 "		106 "		142 "	
35 "		71 "		107 "		143 "	
36 "		72 "		108 "		144 "	
成績評価方法							
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席		○					
筆記試験							
実技試験		○					

デイリートレーニングⅠ

授業形態		演習		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員			実務内容		
授業内容	さまざまなバリエーションで音階練習をおこない、演奏するための基礎体力向上をはかる。				
到達目標	基礎練習を毎日行い演奏するための体力を身につける事を目的とする。				
教材	各楽器指定教則本(50のエチュード/ラクール〈サクソ〉、アーバン金管教則本〈トランペット〉など)				

年間授業計画

1 基礎練習	37 基礎練習	73 -	109 -
2 "	38 "	74 -	110 -
3 "	39 "	75 -	111 -
4 "	40 "	76 -	112 -
5 "	41 "	77 -	113 -
6 "	42 "	78 -	114 -
7 "	43 "	79 -	115 -
8 "	44 "	80 -	116 -
9 "	45 "	81 -	117 -
10 "	46 "	82 -	118 -
11 "	47 "	83 -	119 -
12 "	48 "	84 -	120 -
13 "	49 "	85 -	121 -
14 "	50 "	86 -	122 -
15 "	51 "	87 -	123 -
16 "	52 "	88 -	124 -
17 "	53 "	89 -	125 -
18 "	54 "	90 -	126 -
19 "	55 "	91 -	127 -
20 "	56 "	92 -	128 -
21 "	57 "	93 -	129 -
22 "	58 "	94 -	130 -
23 "	59 "	95 -	131 -
24 "	60 "	96 -	132 -
25 "	61 "	97 -	133 -
26 "	62 "	98 -	134 -
27 "	63 "	99 -	135 -
28 "	64 "	100 -	136 -
29 "	65 "	101 -	137 -
30 "	66 "	102 -	138 -
31 "	67 "	103 -	139 -
32 "	68 "	104 -	140 -
33 "	69 "	105 -	141 -
34 "	70 "	106 -	142 -
35 "	71 "	107 -	143 -
36 "	72 "	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						

デイリートレーニングⅡ

授業形態		演習		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員		実務内容			
授業内容	さまざまなバリエーションで音階練習をおこない、演奏するための基礎体力向上をはかる。				
到達目標	基礎練習を毎日行い演奏するための体力を身につける事を目的とする。				
教材	各楽器指定教則本(50のエチュード/ラクール〈サクソ〉、アーバン金管教則本〈トランペット〉など)				

年間授業計画

1 基礎練習	37 基礎練習	73 -	109 -
2 "	38 "	74 -	110 -
3 "	39 "	75 -	111 -
4 "	40 "	76 -	112 -
5 "	41 "	77 -	113 -
6 "	42 "	78 -	114 -
7 "	43 "	79 -	115 -
8 "	44 "	80 -	116 -
9 "	45 "	81 -	117 -
10 "	46 "	82 -	118 -
11 "	47 "	83 -	119 -
12 "	48 "	84 -	120 -
13 "	49 "	85 -	121 -
14 "	50 "	86 -	122 -
15 "	51 "	87 -	123 -
16 "	52 "	88 -	124 -
17 "	53 "	89 -	125 -
18 "	54 "	90 -	126 -
19 "	55 "	91 -	127 -
20 "	56 "	92 -	128 -
21 "	57 "	93 -	129 -
22 "	58 "	94 -	130 -
23 "	59 "	95 -	131 -
24 "	60 "	96 -	132 -
25 "	61 "	97 -	133 -
26 "	62 "	98 -	134 -
27 "	63 "	99 -	135 -
28 "	64 "	100 -	136 -
29 "	65 "	101 -	137 -
30 "	66 "	102 -	138 -
31 "	67 "	103 -	139 -
32 "	68 "	104 -	140 -
33 "	69 "	105 -	141 -
34 "	70 "	106 -	142 -
35 "	71 "	107 -	143 -
36 "	72 "	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						

演奏研究Ⅰ

授業形態		演習		年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	コンクールやアンサンブルコンテストで審査員を務めている教員による授業		
授業内容	あらかじめ準備したエチュードや楽曲を他の学生の前で発表し、公務員音楽隊やコンセルヴァトワールへのオーディション時に練習成果が発揮できるようにする。また、他の学生の演奏を聴くことにより自身の演奏の参考にする。				
到達目標	人前で演奏することに対しての抵抗感や緊張を緩和し、日頃の練習成果を発揮できるようにする事を目標とする。				
教材	各楽器指定教則本 ソロ曲				

年間授業計画

1 本番形式による個別指導	37 本番形式による個別指導	73 本番形式による個別指導	109 -
2 "	38 "	74 "	110 -
3 "	39 "	75 "	111 -
4 "	40 "	76 "	112 -
5 "	41 "	77 "	113 -
6 "	42 "	78 "	114 -
7 "	43 "	79 "	115 -
8 "	44 "	80 "	116 -
9 "	45 "	81 "	117 -
10 "	46 "	82 "	118 -
11 "	47 "	83 "	119 -
12 "	48 "	84 "	120 -
13 "	49 "	85 "	121 -
14 "	50 "	86 "	122 -
15 "	51 "	87 "	123 -
16 "	52 "	88 "	124 -
17 "	53 "	89 "	125 -
18 "	54 "	90 "	126 -
19 "	55 "	91 "	127 -
20 "	56 "	92 "	128 -
21 "	57 "	93 "	129 -
22 "	58 "	94 "	130 -
23 "	59 "	95 "	131 -
24 "	60 "	96 "	132 -
25 "	61 "	97 "	133 -
26 "	62 "	98 "	134 -
27 "	63 "	99 "	135 -
28 "	64 "	100 "	136 -
29 "	65 "	101 "	137 -
30 "	66 "	102 "	138 -
31 "	67 "	103 "	139 -
32 "	68 "	104 "	140 -
33 "	69 "	105 "	141 -
34 "	70 "	106 "	142 -
35 "	71 "	107 "	143 -
36 "	72 "	108 "	144 -

成績評価方法

評価対象	出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90 B評価 89～80 C評価 79～70 D評価 69～60 E評価 59～ 成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			
筆記試験					
実技試験	○				

演奏研究Ⅱ

授業形態		演習		年間授業時間数	108時間
実務経験のある教員	○	実務内容	コンクールやアンサンブルコンテストで審査員を務めている教員による授業		
授業内容	あらかじめ準備したエチュードや楽曲を他の学生の前で発表し、公務員音楽隊やコンセルヴァトワールへのオーディション時に練習成果が発揮できるようにする。また、他の学生の演奏を聴くことにより自身の演奏の参考にする。				
到達目標	人前で演奏することに対しての抵抗感や緊張を緩和し、日頃の練習成果を発揮できるようにする事を目標とする。				
教材	各楽器指定教則本 ソロ曲				

年間授業計画

1	本番形式による個別指導	37	本番形式による個別指導	73	本番形式による個別指導	109	-
2	"	38	"	74	"	110	-
3	"	39	"	75	"	111	-
4	"	40	"	76	"	112	-
5	"	41	"	77	"	113	-
6	"	42	"	78	"	114	-
7	"	43	"	79	"	115	-
8	"	44	"	80	"	116	-
9	"	45	"	81	"	117	-
10	"	46	"	82	"	118	-
11	"	47	"	83	"	119	-
12	"	48	"	84	"	120	-
13	"	49	"	85	"	121	-
14	"	50	"	86	"	122	-
15	"	51	"	87	"	123	-
16	"	52	"	88	"	124	-
17	"	53	"	89	"	125	-
18	"	54	"	90	"	126	-
19	"	55	"	91	"	127	-
20	"	56	"	92	"	128	-
21	"	57	"	93	"	129	-
22	"	58	"	94	"	130	-
23	"	59	"	95	"	131	-
24	"	60	"	96	"	132	-
25	"	61	"	97	"	133	-
26	"	62	"	98	"	134	-
27	"	63	"	99	"	135	-
28	"	64	"	100	"	136	-
29	"	65	"	101	"	137	-
30	"	66	"	102	"	138	-
31	"	67	"	103	"	139	-
32	"	68	"	104	"	140	-
33	"	69	"	105	"	141	-
34	"	70	"	106	"	142	-
35	"	71	"	107	"	143	-
36	"	72	"	108	"	144	-

成績評価方法

評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90 B評価 89～80 C評価 79～70 D評価 69～60 E評価 59～ 成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				
筆記試験						
実技試験	○					

聴音 I

授業形態		演習		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員			実務内容		
授業内容	①複数の旋律や臨時記号を聞き取れるようにする。 ②4声と音の内声の動きを聞き取れるようにする。				
到達目標	音と音の幅を聞き取ることで、音符に対する注意力を養い、音に反応する力を身につける事を目的とする。				
教材	プリント教材(自作プリント)				

年間授業計画

1 クラス決め試験	37 -	73 -	109 -
2 聴音1	38 -	74 -	110 -
3 聴音2	39 -	75 -	111 -
4 聴音3	40 -	76 -	112 -
5 聴音4	41 -	77 -	113 -
6 聴音5	42 -	78 -	114 -
7 聴音6	43 -	79 -	115 -
8 聴音7	44 -	80 -	116 -
9 聴音8	45 -	81 -	117 -
10 聴音9	46 -	82 -	118 -
11 聴音10	47 -	83 -	119 -
12 聴音11	48 -	84 -	120 -
13 聴音12	49 -	85 -	121 -
14 聴音13	50 -	86 -	122 -
15 聴音14	51 -	87 -	123 -
16 聴音15	52 -	88 -	124 -
17 前期授業内テスト	53 -	89 -	125 -
18 前期まとめ	54 -	90 -	126 -
19 聴音16	55 -	91 -	127 -
20 聴音17	56 -	92 -	128 -
21 聴音18	57 -	93 -	129 -
22 聴音19	58 -	94 -	130 -
23 聴音20	59 -	95 -	131 -
24 聴音21	60 -	96 -	132 -
25 聴音22	61 -	97 -	133 -
26 聴音23	62 -	98 -	134 -
27 聴音24	63 -	99 -	135 -
28 聴音25	64 -	100 -	136 -
29 聴音26	65 -	101 -	137 -
30 聴音27	66 -	102 -	138 -
31 聴音28	67 -	103 -	139 -
32 聴音29	68 -	104 -	140 -
33 聴音30	69 -	105 -	141 -
34 聴音31	70 -	106 -	142 -
35 後期授業内テスト	71 -	107 -	143 -
36 後期まとめ	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験	○					
実技試験						

成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない

聴音Ⅱ

授業形態		演習		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員			実務内容		
授業内容	①複数の旋律や臨時記号を聞き取れるようにする。 ②4声 and 音の内声の動きを聞き取れるようにする。				
到達目標	聴音Ⅰで習得した技術を応用・発展させ更に高度な音に反応する力を身につける事を目標とする。				
教材	プリント教材(自作プリント)				

年間授業計画

1 クラス決め試験	37 -	73 -	109 -
2 聴音1	38 -	74 -	110 -
3 聴音2	39 -	75 -	111 -
4 聴音3	40 -	76 -	112 -
5 聴音4	41 -	77 -	113 -
6 聴音5	42 -	78 -	114 -
7 聴音6	43 -	79 -	115 -
8 聴音7	44 -	80 -	116 -
9 聴音8	45 -	81 -	117 -
10 聴音9	46 -	82 -	118 -
11 聴音10	47 -	83 -	119 -
12 聴音11	48 -	84 -	120 -
13 聴音12	49 -	85 -	121 -
14 聴音13	50 -	86 -	122 -
15 聴音14	51 -	87 -	123 -
16 聴音15	52 -	88 -	124 -
17 前期授業内テスト	53 -	89 -	125 -
18 前期まとめ	54 -	90 -	126 -
19 聴音16	55 -	91 -	127 -
20 聴音17	56 -	92 -	128 -
21 聴音18	57 -	93 -	129 -
22 聴音19	58 -	94 -	130 -
23 聴音20	59 -	95 -	131 -
24 聴音21	60 -	96 -	132 -
25 聴音22	61 -	97 -	133 -
26 聴音23	62 -	98 -	134 -
27 聴音24	63 -	99 -	135 -
28 聴音25	64 -	100 -	136 -
29 聴音26	65 -	101 -	137 -
30 聴音27	66 -	102 -	138 -
31 聴音28	67 -	103 -	139 -
32 聴音29	68 -	104 -	140 -
33 聴音30	69 -	105 -	141 -
34 聴音31	70 -	106 -	142 -
35 後期授業内テスト	71 -	107 -	143 -
36 後期まとめ	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験	○					
実技試験						

成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない

視唱 I

授業形態		演習		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員			実務内容		
授業内容	声に出して歌い、ピアノなどのガイドが無くても正確な音程・リズムを取る練習をする。				
到達目標	声に出して歌うことで、頭の中で正確に音程・リズムをイメージしながら演奏できることを目標とする。				
教材	コンコーネ50番(音楽之友社) コールユーブンゲン(大阪開成館)				

年間授業計画

1	コールユーブンゲン・コンコーネ1	37 -	73 -	109 -
2	コールユーブンゲン・コンコーネ2	38 -	74 -	110 -
3	コールユーブンゲン・コンコーネ3	39 -	75 -	111 -
4	コールユーブンゲン・コンコーネ4	40 -	76 -	112 -
5	コールユーブンゲン・コンコーネ5	41 -	77 -	113 -
6	コールユーブンゲン・コンコーネ6	42 -	78 -	114 -
7	コールユーブンゲン・コンコーネ7	43 -	79 -	115 -
8	コールユーブンゲン・コンコーネ8	44 -	80 -	116 -
9	コールユーブンゲン・コンコーネ9	45 -	81 -	117 -
10	コールユーブンゲン・コンコーネ10	46 -	82 -	118 -
11	コールユーブンゲン・コンコーネ11	47 -	83 -	119 -
12	合唱1	48 -	84 -	120 -
13	合唱2	49 -	85 -	121 -
14	合唱3	50 -	86 -	122 -
15	新曲視唱1	51 -	87 -	123 -
16	新曲視唱2	52 -	88 -	124 -
17	新曲視唱3	53 -	89 -	125 -
18	前期まとめ	54 -	90 -	126 -
19	コールユーブンゲン・コンコーネ12	55 -	91 -	127 -
20	コールユーブンゲン・コンコーネ13	56 -	92 -	128 -
21	コールユーブンゲン・コンコーネ14	57 -	93 -	129 -
22	コールユーブンゲン・コンコーネ15	58 -	94 -	130 -
23	コールユーブンゲン・コンコーネ16	59 -	95 -	131 -
24	コールユーブンゲン・コンコーネ17	60 -	96 -	132 -
25	コールユーブンゲン・コンコーネ18	61 -	97 -	133 -
26	コールユーブンゲン・コンコーネ19	62 -	98 -	134 -
27	コールユーブンゲン・コンコーネ20	63 -	99 -	135 -
28	コールユーブンゲン・コンコーネ21	64 -	100 -	136 -
29	コールユーブンゲン・コンコーネ22	65 -	101 -	137 -
30	合唱4	66 -	102 -	138 -
31	合唱5	67 -	103 -	139 -
32	合唱6	68 -	104 -	140 -
33	新曲視唱4	69 -	105 -	141 -
34	新曲視唱5	70 -	106 -	142 -
35	新曲視唱6	71 -	107 -	143 -
36	後期まとめ	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○	(出席率) A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験		(実技試験) A評価 100～90	B評価 89～70	C評価 69～50	D評価 49～	E評価 未受験
実技試験	○	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				

視唱Ⅱ

授業形態		演習		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員		実務内容			
授業内容	声に出して歌い、ピアノなどのガイドが無くても正確な音程・リズムを取る練習をする。				
到達目標	声に出して歌うことで、頭の中で正確に音程・リズムをイメージしながら演奏できることを目標とする。				
教材	コンコーネ50番(音楽之友社) コールユーブンゲン(大阪開成館)				
年間授業計画					
1	コールユーブンゲン・コンコーネ1	37 -	73 -	109 -	
2	コールユーブンゲン・コンコーネ2	38 -	74 -	110 -	
3	コールユーブンゲン・コンコーネ3	39 -	75 -	111 -	
4	コールユーブンゲン・コンコーネ4	40 -	76 -	112 -	
5	コールユーブンゲン・コンコーネ5	41 -	77 -	113 -	
6	コールユーブンゲン・コンコーネ6	42 -	78 -	114 -	
7	コールユーブンゲン・コンコーネ7	43 -	79 -	115 -	
8	コールユーブンゲン・コンコーネ8	44 -	80 -	116 -	
9	コールユーブンゲン・コンコーネ9	45 -	81 -	117 -	
10	コールユーブンゲン・コンコーネ10	46 -	82 -	118 -	
11	コールユーブンゲン・コンコーネ11	47 -	83 -	119 -	
12	合唱1	48 -	84 -	120 -	
13	合唱2	49 -	85 -	121 -	
14	合唱3	50 -	86 -	122 -	
15	新曲視唱1	51 -	87 -	123 -	
16	新曲視唱2	52 -	88 -	124 -	
17	新曲視唱3	53 -	89 -	125 -	
18	前期まとめ	54 -	90 -	126 -	
19	コールユーブンゲン・コンコーネ12	55 -	91 -	127 -	
20	コールユーブンゲン・コンコーネ13	56 -	92 -	128 -	
21	コールユーブンゲン・コンコーネ14	57 -	93 -	129 -	
22	コールユーブンゲン・コンコーネ15	58 -	94 -	130 -	
23	コールユーブンゲン・コンコーネ16	59 -	95 -	131 -	
24	コールユーブンゲン・コンコーネ17	60 -	96 -	132 -	
25	コールユーブンゲン・コンコーネ18	61 -	97 -	133 -	
26	コールユーブンゲン・コンコーネ19	62 -	98 -	134 -	
27	コールユーブンゲン・コンコーネ20	63 -	99 -	135 -	
28	コールユーブンゲン・コンコーネ21	64 -	100 -	136 -	
29	コールユーブンゲン・コンコーネ22	65 -	101 -	137 -	
30	合唱4	66 -	102 -	138 -	
31	合唱5	67 -	103 -	139 -	
32	合唱6	68 -	104 -	140 -	
33	新曲視唱4	69 -	105 -	141 -	
34	新曲視唱5	70 -	106 -	142 -	
35	新曲視唱6	71 -	107 -	143 -	
36	後期まとめ	72 -	108 -	144 -	
成績評価方法					
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする			
出席	○	(出席率) A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60 E評価 59～
筆記試験		(実技試験) A評価 100～90	B評価 89～70	C評価 69～50	D評価 49～ E評価 未受験
実技試験	○	成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない			

ピアノ基礎Ⅰ

授業形態		演習		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員		実務内容			
授業内容	基礎的なピアノ楽曲の演奏				
到達目標	基礎ピアノ演奏技術を身につけ、演奏や仕事に役立てる事を目標とする。				
教材	バイエル教則本(全音楽譜出版社)・ハノンピアノ教本(全音楽譜出版社)・ブルクミュラー25の練習曲(全音楽譜出版社)				

年間授業計画

1 個別指導	37 -	73 -	109 -
2 "	38 -	74 -	110 -
3 "	39 -	75 -	111 -
4 "	40 -	76 -	112 -
5 "	41 -	77 -	113 -
6 "	42 -	78 -	114 -
7 "	43 -	79 -	115 -
8 "	44 -	80 -	116 -
9 "	45 -	81 -	117 -
10 "	46 -	82 -	118 -
11 "	47 -	83 -	119 -
12 "	48 -	84 -	120 -
13 "	49 -	85 -	121 -
14 "	50 -	86 -	122 -
15 "	51 -	87 -	123 -
16 "	52 -	88 -	124 -
17 "	53 -	89 -	125 -
18 "	54 -	90 -	126 -
19 "	55 -	91 -	127 -
20 "	56 -	92 -	128 -
21 "	57 -	93 -	129 -
22 "	58 -	94 -	130 -
23 "	59 -	95 -	131 -
24 "	60 -	96 -	132 -
25 "	61 -	97 -	133 -
26 "	62 -	98 -	134 -
27 "	63 -	99 -	135 -
28 "	64 -	100 -	136 -
29 "	65 -	101 -	137 -
30 "	66 -	102 -	138 -
31 "	67 -	103 -	139 -
32 "	68 -	104 -	140 -
33 "	69 -	105 -	141 -
34 "	70 -	106 -	142 -
35 "	71 -	107 -	143 -
36 "	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						

ピアノ基礎Ⅱ

授業形態		演習		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員		実務内容			
授業内容	基礎的なピアノ楽曲の演奏				
到達目標	基礎ピアノ演奏技術を身につけ、演奏や仕事に役立てる事を目標とする。				
教材	バイエル教則本(全音楽譜出版社)・ハノン(全音楽譜出版社)・ソナチネアルバム(全音楽譜出版社)				

年間授業計画

1 個別指導	37 -	73 -	109 -
2 "	38 -	74 -	110 -
3 "	39 -	75 -	111 -
4 "	40 -	76 -	112 -
5 "	41 -	77 -	113 -
6 "	42 -	78 -	114 -
7 "	43 -	79 -	115 -
8 "	44 -	80 -	116 -
9 "	45 -	81 -	117 -
10 "	46 -	82 -	118 -
11 "	47 -	83 -	119 -
12 "	48 -	84 -	120 -
13 "	49 -	85 -	121 -
14 "	50 -	86 -	122 -
15 "	51 -	87 -	123 -
16 "	52 -	88 -	124 -
17 "	53 -	89 -	125 -
18 "	54 -	90 -	126 -
19 "	55 -	91 -	127 -
20 "	56 -	92 -	128 -
21 "	57 -	93 -	129 -
22 "	58 -	94 -	130 -
23 "	59 -	95 -	131 -
24 "	60 -	96 -	132 -
25 "	61 -	97 -	133 -
26 "	62 -	98 -	134 -
27 "	63 -	99 -	135 -
28 "	64 -	100 -	136 -
29 "	65 -	101 -	137 -
30 "	66 -	102 -	138 -
31 "	67 -	103 -	139 -
32 "	68 -	104 -	140 -
33 "	69 -	105 -	141 -
34 "	70 -	106 -	142 -
35 "	71 -	107 -	143 -
36 "	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						

マーチングⅠ

授業形態		演習		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員	○	実務内容	公務員音楽隊員としてマーチング実務経験のある教員による授業		
授業内容	①様々なドリル技術の演習。 ②マーチング用ドリルコンテの製作。 ③公務員試験の為の体力づくり				
到達目標	各種音楽隊での演奏活動に対応できるようにマーチング技術を身につける事を目標とする。				
教材	ハンドブック① マーチングバンド&バトントワリング(日本マーチングバンド・バトントワーリング協会)				

年間授業計画

1 マーチング基本知識	37 映像による研究1	73 -	109 -
2 "	38 "	74 -	110 -
3 基本動作(姿勢、MT)	39 映像による研究2	75 -	111 -
4 "	40 "	76 -	112 -
5 基本動作(RF、LF、AF)	41 マーチング曲合奏1	77 -	113 -
6 "	42 "	78 -	114 -
7 基本動作(FM)	43 マーチング曲合奏2	79 -	115 -
8 "	44 "	80 -	116 -
9 基本動作(RM)	45 マーチング曲合奏3	81 -	117 -
10 "	46 "	82 -	118 -
11 方向変換(4拍)	47 マーチング曲暗譜1	83 -	119 -
12 "	48 "	84 -	120 -
13 4拍によるL字パターン	49 マーチング曲暗譜2	85 -	121 -
14 "	50 "	86 -	122 -
15 方向変換(2拍)	51 コンテ1	87 -	123 -
16 "	52 "	88 -	124 -
17 2拍によるL字パターン	53 コンテ2	89 -	125 -
18 "	54 "	90 -	126 -
19 方向変換(スピン)	55 コンテ3	91 -	127 -
20 "	56 "	92 -	128 -
21 スピンによるL字パターン	57 コンテ4	93 -	129 -
22 "	58 "	94 -	130 -
23 コンビネーション(LP、RP)	59 ドラムメジャー1	95 -	131 -
24 "	60 "	96 -	132 -
25 コンビネーション(RTS)	61 ドラムメジャー2	97 -	133 -
26 "	62 "	98 -	134 -
27 コンビネーション(FTL)	63 カラーガード1	99 -	135 -
28 "	64 "	100 -	136 -
29 コンビネーション(RPC、LPC)	65 カラーガード2	101 -	137 -
30 "	66 "	102 -	138 -
31 応用(オブリーク)	67 コンテ研究1	103 -	139 -
32 "	68 "	104 -	140 -
33 N字パターン	69 コンテ研究2	105 -	141 -
34 "	70 "	106 -	142 -
35 Z字パターン	71 コンテ研究3	107 -	143 -
36 "	72 "	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				
実技試験						

マーチングⅡ

授業形態		演習		年間授業時間数	72時間
実務経験のある教員	○	実務内容	公務員音楽隊員としてマーチング実務経験のある教員による授業		
授業内容	①様々なドリル技術の演習。 ②マーチング用ドリルコンテの製作。 ③公務員試験の為の体力づくり				
到達目標	マーチングの指導が出来る知識を身につける事を目標とする。				
教材	ハンドブック① マーチングバンド＆バトントワリング（日本マーチングバンド・バトントワーリング協会）				

年間授業計画

1 マーチング基本知識	37 映像による研究1	73 -	109 -
2 "	38 "	74 -	110 -
3 基本動作(姿勢、MT)	39 映像による研究2	75 -	111 -
4 "	40 "	76 -	112 -
5 基本動作(RF、LF、AF)	41 マーチング曲合奏1	77 -	113 -
6 "	42 "	78 -	114 -
7 基本動作(FM)	43 マーチング曲合奏2	79 -	115 -
8 "	44 "	80 -	116 -
9 基本動作(RM)	45 マーチング曲合奏3	81 -	117 -
10 "	46 "	82 -	118 -
11 方向変換(4拍)	47 マーチング曲暗譜1	83 -	119 -
12 "	48 "	84 -	120 -
13 4拍によるL字パターン	49 マーチング曲暗譜2	85 -	121 -
14 "	50 "	86 -	122 -
15 方向変換(2拍)	51 コンテ1	87 -	123 -
16 "	52 "	88 -	124 -
17 2拍によるL字パターン	53 コンテ2	89 -	125 -
18 "	54 "	90 -	126 -
19 方向変換(スピン)	55 コンテ3	91 -	127 -
20 "	56 "	92 -	128 -
21 スピンによるL字パターン	57 コンテ4	93 -	129 -
22 "	58 "	94 -	130 -
23 コンビネーション(LP、RP)	59 ドラムメジャー1	95 -	131 -
24 "	60 "	96 -	132 -
25 コンビネーション(RTS)	61 ドラムメジャー2	97 -	133 -
26 "	62 "	98 -	134 -
27 コンビネーション(FTL)	63 カラーガード1	99 -	135 -
28 "	64 "	100 -	136 -
29 コンビネーション(RPC、LPC)	65 カラーガード2	101 -	137 -
30 "	66 "	102 -	138 -
31 応用(オブリーク)	67 コンテ研究1	103 -	139 -
32 "	68 "	104 -	140 -
33 N字パターン	69 コンテ研究2	105 -	141 -
34 "	70 "	106 -	142 -
35 Z字パターン	71 コンテ研究3	107 -	143 -
36 "	72 "	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない				
実技試験						

社会人基礎Ⅰ

授業形態		講義		年間授業時間数	36時間
実務経験のある教員			実務内容		
授業内容	社会人としての素養を身に付けるため、社会人としてのあり方などを学ぶ。				
到達目標	社会人としての素養を身に付ける。				
教材	自作プリント等				

年間授業計画

1 個別指導(1年次)	37 -	73 -	109 -
2 "	38 -	74 -	110 -
3 "	39 -	75 -	111 -
4 "	40 -	76 -	112 -
5 "	41 -	77 -	113 -
6 "	42 -	78 -	114 -
7 "	43 -	79 -	115 -
8 "	44 -	80 -	116 -
9 "	45 -	81 -	117 -
10 "	46 -	82 -	118 -
11 "	47 -	83 -	119 -
12 "	48 -	84 -	120 -
13 "	49 -	85 -	121 -
14 "	50 -	86 -	122 -
15 "	51 -	87 -	123 -
16 "	52 -	88 -	124 -
17 "	53 -	89 -	125 -
18 "	54 -	90 -	126 -
19 個別指導(2年次)	55 -	91 -	127 -
20 "	56 -	92 -	128 -
21 "	57 -	93 -	129 -
22 "	58 -	94 -	130 -
23 "	59 -	95 -	131 -
24 "	60 -	96 -	132 -
25 "	61 -	97 -	133 -
26 "	62 -	98 -	134 -
27 "	63 -	99 -	135 -
28 "	64 -	100 -	136 -
29 "	65 -	101 -	137 -
30 "	66 -	102 -	138 -
31 "	67 -	103 -	139 -
32 "	68 -	104 -	140 -
33 "	69 -	105 -	141 -
34 "	70 -	106 -	142 -
35 "	71 -	107 -	143 -
36 "	72 -	108 -	144 -

成績評価方法

評価対象		出席率によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験						
実技試験						
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						

フランス語 I

授業形態		講義		年間授業時間数		144時間	
実務経験のある教員		実務内容					
授業内容		日常会話から音楽的な専門会話を行えるようと語彙力を学ぶ					
到達目標		留学後、現地での生活やレッスン等に支障をきたさないよう語学能力を身に付ける。					
教材		ぜんぶ話して！（白水社） 《新版》ル・フランセ（白水社） プリント教材					
年間授業計画							
1 第0課（1）アルファベ、綴り文字、発音のルール		37 "		73 第8課（1）動詞prendre/manger/boireの活用、部分冠詞		109 第12課（1）動詞vouloir/pouvoir/devoirの活用、	
2 第0課（2）数詞1～10、教室でよく使う表現、あいさつ		38 第4課（2）前置詞のaと定冠詞の縮約、不定冠詞		74 "		110 "	
3 "		39 "		75 "		111 "	
4 "		40 第5課（1）動詞avoir、形容詞の性・数一致		76 "		112 "	
5 "		41 "		77 第8課（2）部分冠詞と不定冠詞の使い分け、çaとen		113 第12課（2）都市や国に関わる前置詞、季節、天候の表現	
6 第1課（1）主語代名詞、動詞être、男性形と女性形		42 "		78 "		114 "	
7 "		43 "		79 "		115 "	
8 "		44 第5課（2）avoirと否定のde、疑問詞quel、数詞11～25		80 "		116 "	
9 "		45 "		81 "		117 "	
10 "		46 "		82 第9課（1）動詞aller/venirの活用		118 第13課（1）過去分詞の作り方	
11 第1課（2）イントネーションによる疑問文、否定表現		47 "		83 "		119 "	
12 "		48 "		84 "		120 "	
13 "		49 第6課（1）所有形容詞、動詞s'appeler/faireの活用		85 "		121 "	
14 "		50 "		86 第9課（2）場所を表す前置詞、人称代名詞・強勢形		122 第13課（2）複合過去	
15 第2課（1）-er動詞の活用		51 "		87 "		123 "	
16 "		52 "		88 "		124 "	
17 "		53 第6課（2）疑問詞 comment、quoi/qu'est-ce que/que、数詞26～99		89 "		125 "	
18 "		54 "		90 "		126 "	
19 "		55 "		91 第10課（1）動詞écrire/se leverの活用		127 第14課（1）代名動詞の複合過去	
20 第2課（2）Est-ce queを用いた疑問文		56 "		92 "		128 "	
21 "		57 "		93 "		129 "	
22 "		58 "		94 "		130 "	
23 "		59 第7課（1）動詞faireで表す様々な活動		95 第10課（2）目的語代名詞		131 第14課（2）êtreとavoirの半過去の活用	
24 第3課（1）名詞と定冠詞		60 "		96 "		132 "	
25 "		61 "		97 "		133 "	
26 "		62 "		98 "		134 "	
27 "		63 "		99 "		135 "	
28 "		64 第7課（2）faireと否定のde、動詞sortir/dormir/voir/tireの活用		100 第11課（1）動詞partir/finirの活用、時刻の表現		136 第14課（3）複合過去と半過去、語を組み立てるための表現	
29 第3課（2）「好き」「きれい」の様々な表現		65 "		101 "		137 "	
30 "		66 "		102 "		138 "	
31 "		67 "		103 "		139 "	
32 "		68 "		104 第11課（2）疑問詞quand、近接未来		140 "	
33 第4課（1）3つの疑問の形、疑問詞 où/d' où/avec qui		69 前期試験準備		105 "		141 "	
34 "		70 "		106 "		142 後期試験準備	
35 "		71 前期試験		107 "		143 "	
36 "		72 前期試験解答		108 "		144 後期試験	
成績評価方法							
評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする					
出席		○		A評価 100～90 B評価 89～80 C評価 79～70 D評価 69～60 E評価 59～			
筆記試験		○					
実技試験		成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない					

フランス語Ⅱ

授業形態		講義		年間授業時間数	144時間
------	--	----	--	---------	-------

実務経験のある教員		実務内容	
-----------	--	------	--

授業内容	日常会話から音楽的な専門会話を行えるよう語彙力を学ぶ
------	----------------------------

到達目標	留学後、現地での生活やレッスン等に支障をきたさないよう語学能力を身に付ける。
------	--

教材	《新版》ル・フランセ(白水社) 私のホームステイ(白水社) プリント教材
----	--

年間授業計画

1 第1課(1)「～が好きです」「～がしたいです」	37 第3課(3)数詞を含んだ簡単な表現	73 第6課(2)直接法単純未来、関係代名詞qui/que/où	109 "
2 "	38 "	74 "	110 "
3 "	39 "	75 "	111 第9課(1)「～より～です」
4 第1課(2)規則動詞と不規則動詞	40 "	76 "	112 "
5 "	41 第4課(1)「～してもらえますか」「～していいですか」	77 "	113 "
6 "	42 "	78 第6課(3)「～はありますか」と尋ねる時	114 "
7 "	43 "	79 "	115 "
8 "	44 "	80 "	116 第9課(2)形容詞・副詞の比較級と最大級
9 第1課(3)あいさつと自己紹介の表現、応答文の練習	45 第4課(2)中性代名詞en/y/le、中性代名詞の位置	81 "	117 "
10 "	46 "	82 "	118 "
11 "	47 "	83 第7課(1)「～が必要です」「～ねばなりません」	119 "
12 "	48 "	84 "	120 "
13 第2課(1)「私の～は～です」「～に興味がある」	49 "	85 "	121 "
14 "	50 第4課(3)数詞を含んだ表現2	86 "	122 第9課(3)条件法、非人称構文を使った表現
15 "	51 "	87 第7課(2)冠詞	123 "
16 "	52 "	88 "	124 "
17 "	53 "	89 "	125 "
18 第2課(2)人称代名詞、代名動詞について	54 第5課(1)「～したばかり」	90 "	126 "
19 "	55 "	91 第7課(3)買い物をする時の表現	127 第10課(1)「～らしい」
20 "	56 "	92 "	128 "
21 "	57 "	93 "	129 "
22 "	58 第5課(2)複合過去、非人称構文	94 "	130 "
23 第2課(3)家園について話すための表現、感謝の気持ちを表す表現	59 "	95 "	131 "
24 "	60 "	96 第8課(1)「何て～でしょう」	132 "
25 "	61 "	97 "	133 第10課(2)接続法現在、接続法過去
26 "	62 第5課(3)電話での表現	98 "	134 "
27 第3課(1)「～に始まる」「～に終わる」	63 "	99 "	135 "
28 "	64 "	100 "	136 "
29 "	65 "	101 第9課(2)直接法半過去、直接法大過去	137 "
30 "	66 第6課(1)「～のようです」	102 "	138 第10課(3)接続法の主な用法
31 "	67 "	103 "	139 "
32 第3課(2)近接過去と近接未来、不定形容詞tout	68 "	104 "	140 "
33 "	69 "	105 "	141 "
34 "	70 前期試験準備	106 第8課(3)「おめでとう」「よろしく」の表現	142 後期試験準備1
35 "	71 前期試験	107 "	143 後期試験準備2
36 "	72 前期試験解答	108 "	144 後期試験

成績評価方法

評価対象		出席率及び試験点数の平均によりAからEの評価とする				
出席	○	A評価 100～90	B評価 89～80	C評価 79～70	D評価 69～60	E評価 59～
筆記試験	○					
実技試験						
成績で評価Eが付いた科目は履修を認めない						